

「文芸時報」目録

自第十二号至第百五十号（不揃）

山 内 祥 史

は し が き

「文芸時報」は、大正十四年十一月二十五日に創刊号を発行し、昭和五年十二月十七日に第百五十号を発行して、これを最後に紙名を改題、「芸術新聞」になったと推測される。

まず、創刊を大正十四年十二月二十五日と推測するのは、つぎのような理由からである。（1）私が閲覧し得たものとも古い「文芸時報」は、大正十五年五月十日発行の第十二号である。これには、（五月下旬号）とあり、（毎月二回十日 廿五日発行）という記録も見られる。初期の「文芸時報」で確認し得た号は、十二号以下、

第十三号（五月下旬号） 大正十五年五月廿五日発行

第十五号（六月下旬号） 大正十五年六月廿五日発行

第十六号（七月下旬号） 大正十五年七月廿五日発行

などであるが、これらの各号には、いずれも、（毎月二回）（毎月二回十日 廿五日発行）などの記録が見られる。もし、これらの記録通りに発行されたものとすれば、創刊号から第十一号までは、

- 創刊号（十一月下旬号） 大正十四年十一月廿五日発行
- 第二号（十二月上旬号） 大正十四年十二月十日発行
- 第三号（十二月下旬号） 大正十四年十二月廿五日発行
- 第四号（一月上旬号） 大正十五年一月十日発行
- 第五号（一月下旬号） 大正十五年一月廿五日発行
- 第六号（二月上旬号） 大正十五年二月十日発行
- 第七号（二月下旬号） 大正十五年二月廿五日発行
- 第八号（三月上旬号） 大正十五年三月十日発行
- 第九号（三月下旬号） 大正十五年三月廿五日発行
- 第十号（四月上旬号） 大正十五年四月十日発行
- 第十一号（四月下旬号） 大正十五年四月廿五日発行

と、発行されてきたと推定される。（2）第十六号の「読者諸君へ」の一節に、「本誌が創刊されてからまだ八ヶ月十六号に過ぎないが、発展は実に素晴らしい勢である。」と記されている。この「八ヶ月」は、どのような計算法によるものか、確認できないが、満の計算をすれば、大正十四年十一月二十五日から数えて、第十六号の大正十五年七月二十五日は、ちょうど満で「八ヶ月」になり、先の推定に合致する。（3）第十二号、第十三号、第十五号、第十六号などの発行状況から、第十四号は、（六月上旬号）で、大正十五年六月十日の発行と推定される。したがって、第十五号と第十六号との間の（七月上旬号）の休刊を除けば、他は定期的に発行されているといえる。ところで、（七月上旬号）の休刊に関しては、第十六号につきのような記事が見られる。

急告／本紙が毎号後れるので、読者諸君から頻々と手酷しいお叱りを受け、その應接に迫も堪らないので思ひ

切って上旬号を一回オミットし下旬号から期日通りに出すことにしました。その代り、本号は御覧の通り頁数を増大し、二号分を一度に出した位にしましたから、此点御諒承を願ひます。／編集部

この「急告」によれば、第十五号に至る各号は、（毎月二回十日 廿五日発行）という予定日通りに発行されず、「毎号」予定日より「後れ」て発行されていたと推定される。が、「後れ」ても発行はされていたのであって、休刊があったというわけではないように思われる。（七月上旬号）の休刊を、「思ひ切って一回オミットし」といっているところからも、第十五号までは、「後れ」ながらも、「毎月二回」の発行を続けてきた、と推定されるように思われる。なお、「読者諸君から頻々と手酷しいお叱りを受け」たという「読者」とは、「月極め年極め読者」のことである。第十二号から第十六号までの各号には、「定価／一部金五銭／一ヶ月郵税共金十銭／半ヶ年郵税共金五十七銭／一ヶ年郵税共金一円十銭」と記されている。「一ヶ月」あるいは「半ヶ年」「一ヶ年」といった予約購読者が、どれほどいたか不明だが、第十六号の「読者諸君へ」の一節に、「早く部数を五十万か百万位にしなければならぬ。」と記しているところから、かなりの数であったのではないかとも思われる。そういった「読者」から、発行の「後れ」に対する「手酷しいお叱りを受け」、「思ひ切って上旬号を一回オミット」することにしたのだろう。なお、先の「急告」に、「本号は御覧の通り頁数を増大し、二号分を一度に出した位にしました」といっている通り、それまでは、第十二号十二頁、第十三号十二頁、第十五号十二頁と、十二頁のペースであったにもかかわらず、第十六号は二十頁の（特別増頁）号とし、「本号に限り一部売りは金七銭但し月極め年極め読者への定価は変更せず一部として計算」したようである。以上のような状況から、創刊号から第十一号までは、実際の発行日はともかくとして、（毎月二回十日 廿五日発行）を守ってきたのではないかと思われる。（４）第十六号の「読者諸君へ」の一節には、「紙面はもっと殖したく、記事はもっと多方面に豊富に入れたく、回数はずっと頻繁に、尠くとも一週間位には出したく」とも記されている。この一節に見られるような意向をもっていたことは事実であったとみてさしつかえないで

あろう。第十七号以後、いつから週刊になったかは不明だが、第二十六号では、すでに「週刊毎木曜日発行」となっている。おそらくはこの第二十六号から週刊となったのだらうと思われるが、それはともかく、このような意向をもつて発行されていて、「一回オミットし」た大正十五年七月上旬号も、下旬号で「頁数を増大し、二号分を一度に出した位に」しているところからも、創刊号から第十二号までの間に、休刊があったように思われる。(5)「文芸時報」の各号には、(大正十四年十二月十四日／第三種郵便物認可)の記録が見られる。当時のこのような新聞の、実際の発行と、「第三種郵便物」の申請と「認可」との関係が、どのようにであったのか、確認できていないが、この記録も、大正十四年十一月廿五日創刊という推定と、矛盾はしないように思われる。

つぎに、「文芸時報」の最後を第百五十号と推定するのは、つぎのような理由からである。(1)第百五十号の「来る新年より／芸術新聞と改題」という見出しの「社告」に、つぎのような一節が見られる。

来る新年より「芸術新聞」と改題することにした。倍旧の御愛読と御鞭撻とを切に願ひ上げます。／
追而、本年は例年通り、年末の事務輻輳と、記念拡大号準備の為此号を以て最終の号とし、次号は新年拡大号を以てお目にかゝります。

そして、(2)「芸術新聞」第百五十三号は昭和六年二月五日発行、第百五十四号は二月十二日発行、第百五十五号は三月五日発行であるから、昭和六年一月には、第百五十一号と第百五十二号との二号が発行されたと推定される。

なお、この目録で紹介することのできなかつた各号のうち、発行年月日が確認できたものを挙げておくと、つぎのようになる。

第十四号(六月上旬号) 大正十五年六月十日発行

第二十九号 昭和二年三月三日発行

第三十号 昭和二年三月十日発行

第三十三号 昭和二年四月七日発行

第七号 昭和四年五月二十三日発行

第八号 昭和四年五月三十日発行

第四百十八号 昭和五年十一月六日発行

また、(毎月二回十日 廿五日発行)が、いつ(週刊毎木曜日発行)となったかは、確認できないが、先にこれを「おそらくはこの第二十六号から週刊となったのだらうと思われる」と記したのは、第二十七号の「社告」に、つぎのような一節があるからである。

本紙が週刊となりましたので、前々号社告の通り定価が変りました(中略)尚ほ前々号社告に第一木曜よりとありましたのは第二木曜よりの誤植に付き、此義もお含みを願ひ上げます。

「発行編輯兼印刷人」は、第十二号以後第五百十号まで、すべて「多恵文雄」となっている。また、発行所は、第十二号から第三十四号までは、「東京市小石川区高田老松町五八／発行所 文芸時報社／電話牛込四二一二番／振替東京七三七七九番」となっているが、第五十三号では、「東京市小石川区雑司谷町七五／発行所 文芸時報社／電話小石川六一二六番／振替東京七三七七九番」となり、これが第百十一号まで続いている。さらに、第百十四号には「移転／社務拡張の為、左記へ移転しました／(電話番号も変更)／文芸時報社／電話小石川一三九五番」と記され、「東京市小石川区林町二／発行所 文芸時報社／電話小石川一三九五番／振替東京七三七七九番」となっていて、これが第百五十号まで続いている。

定価は、第十二号から第十六号までは、すでに引用したよように「定価／一部金五銭／一ヶ月郵税共金十銭／半ヶ月郵税共金五十七銭／一ヶ月郵税共金一円十銭」となっている。これが、「週刊」となっている第二十六号では、

「定価／一部金五銭／十週分郵税共金五十五銭／三十週分同一円五十五銭／六十週分同金三円」となっていて、この定価が第百十一号まで続いている。第百十四号では、「一部金五銭／十週分送料共五十五銭／三十週分同一円四十銭／六十五週分同金三円」となって、この定価が、第百五十号まで続いている。

さて、第十六号の「編輯室より」に、つぎのような一節がある。

わが『文芸時報』は、文芸界に於ける唯一の文芸新聞として、相当に權威を持ち、執筆者の如きも、現文壇の主流に立つ大家中堅の人々のみであることは、諸君も御存知の通りであります。

この一節にみられるように、「文芸時報」は、最初の頃「文芸界に於ける唯一の文芸新聞」であったのだが、やがて「美術版」を発行しはじめて、「文芸」に限らず「芸術全般」にわたる新聞に変質していくようである。「美術版」がいつごろから発行されはじめたか、不明だが、私が閲覧し得たものとも古い「美術版」は、昭和三年五月十日発行の第六十九号である。おそらくは、この頃から発行されはじめたものであろう。百号代になると、この「美術版」の発行頻度はますます多くなり、ついには、紙名までも改める事態にたちいたったようだ。第百五十号所載の「社告」では、「芸術新聞」と改題する理由を、つぎのように述べている。

創刊七年、来る新年を期して、本紙として空前の飛躍を試みる計画であります。内容の面目を一新し、単に面白き新聞といふに止まらず、芸術全般に亘り、常備必須の有用な新聞とする計画であります。／就ては、「文芸時報」の文芸の字義は、宏く文学、芸術の意を以て用ゐたのでありますが、世間動もすれば単に文学関係のものゝみと解し、其他の芸術には、比較的縁薄きが如くに思はるゝ傾きがありました。輒ち茲に、本紙空前の内容刷新を機とし、全芸術界に通ずる唯一の機関としての使命を如実に示す名称を選び、来る新年より「芸術新聞」と改題することにいたしました。

こうして「文学関係」を中心とした新聞から、「芸術全般に亘」る新聞へと変質していったように思われる。さら

に、「文芸時報」所載各欄の性質なども説明すればよいのだが、多岐にわたって煩をきわめるので、省略することにした。

なお、この目録の記述方法は、※印の下の記事は山内の注記であるなど、小田切進氏の『現代日本文芸総覧』の方法をほぼ踏襲した。記して謝意を表しておきたい。さらに、この新聞を閲覧し得たのは、神戸女学院大学図書館の好情によってである。併せて記し謝意を表しておきたい。多くの欠号のある不備な目録で恐縮だが、日本近代文学研究家からの要望もあり、また、私自身の便宜のためもあって、思いきって現在判明している範囲の号をまとめて記録し、公にした。欠号部分は、以後気をつけて探索し、機を見て補っていききたいと思っている。また、ここに紹介した諸文章の中には、すでに全集が刊行されている著名な文学者の、全集未収録の文章もある。それらも、追って機を見て紹介していききたいと思っている。

創刊号／第十一号(欠)

第十二号(五月上旬号)

日発行 一二面

大正十五年五月十

出版道德に就いて／予約もの流行と八雲全集

菊池 寛 一

切支丹の心／馬鹿になる教育法

吉田絃二郎 一
綿貫 六助 一

兄の咯血(※小説)

生方 敏郎 二

歴史劇に就いて／「安土の春」と「勝頼の最後」

大局から見た批評

近詠(俳句)

文壇アーケード—広告—

邦枝氏等と与ふ—征矢—

片上伸氏の抗議文を読み

石原 万戸 二
堀木 克三 二
生方 敏郎 二

作品と社会的影響—広津氏の所論を読んで

感想の書けなかった感想

裸婦と蝶々(※短詩)

五月の創作から

(※五月信子、哲学講座、「文学講義」などの記事)

通俗小説暗流誌(三)／呆れ返った通俗作家の内幕

豊田 豊 五

(※里見弴、久米正雄、鈴木三重吉、宇野千代、沢

田正二郎、文芸春秋社、文芸戦線社、日本最初の

演劇図書館などの記事)

(※久米正雄、中戸川吉二、プロ派文士、石川三四

郎、赤松月船、サトウ・ハチローなどの記事)

(※正宗白鳥の記事)

文学常識／郷土芸術—小研究

文学常識／郷土芸術—小研究

文芸常識／郷土芸術—小研究

異聞珍話面会料徴収／但しこれは昔のこと／ゴシッ

プ子様々と崇むべし

時報／五月創作月報(二)／文壇消息／転居／旅行、滞

在、文芸会集会／著書近刊／雑誌消息

短歌／俳句

新劇俳優月旦(二)／若宮美子

『西の人氣男』を観る—新劇協会—

『ミシエル・オオクレエル』を観る

時報／演芸界／美術界／音楽界

思出の記(六)

新刊総覧四月(下)／文学／美術／音楽／宗教、哲

学／教育、修養／政治、経済、法律／農、工、商

四

四

四

四

三

三

二

二

二

二

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

黒耀亭

八

八

八

八

七

七

七

七

八

八

八

八

八

八

九

九

九

九

九

九

九

九

業／理、化、工学／国語

二〇二

文士出生地一覧

小説の社会味

松永 延造

二

諸雜誌瞥見／新小説／生命

今山 晴介

二

罪の渦を読み／読後の感

鈴木 正彦

二

作中の女を人形にして陳列／露青年が早大に聴講

三

（※主要広告）徳富健次郎著「小説寄生木」、岩橋武夫著

「動き行く墓場」、エリオット著「サイラス・マア

ナ」、ガローウニン著「日本幽囚実記」、三島才二編

「南蠻紀文選」、早稲田大学文学講義、「小泉八雲全

集」、春陽堂出版、ゾラ作井上勇訳「罪の渦」、「逍

遙選集」、「世界文豪代表作全集」

第十三号（五月下旬号） 大正十五年五月二

十五日発行 一二面

泡鳴のことなど―死後の全集、其他― 正宗 白鳥 一

新文芸の萌芽／文壇意識より離脱せよ 加藤 一夫 一

『痴情』是非 徳田 秋声 一

醉中言（） 葛西 善蔵 一

近頃見た脚本 金子 洋文 二

批評壇不振―主としてプロ派の批評家へ―

武川重太郎 二

新刊紹介（二）／商船「テナシチイ」（ヴィルドラック）

／ミシエル・オオクレエル（ヴィルドラック）／

眼（小泉総之助著）

第一流芸術家論断片

自作上演に就いて／ドラマリーグ、其他

想像力なき現文壇

夢（※短詩）

水銀塔

新刊紹介／女誠扇奇譚（佐藤春夫著）／ポオ評伝

（野口米次郎著）／生きている小平次（鈴木泉三

郎著）／文芸六講（木村毅著）／幻の麗人（福田

正夫著）

通俗小説暗流誌／呆れ返った通俗作家の内幕

文芸家協会について―征矢―

昔の話／幫間

（※吉井勇、久米正雄、里見淳、中戸川吉二、金子

洋文、酒井真人、文藝、加藤一夫、文学女郎と白

蓮などの記事）

（※前田晁、與謝野寛、加藤武雄、藤井眞澄、谷崎

六

潤一郎、プロ派文士、堀口大学などの記事)	七
新劇俳優月旦(三)／山田隆彌／岡田嘉子	八
『男達ばかり』を観る—歌舞伎座	八
文芸常識故事の研究／創作資料隠語と方言／誤字誤用文字の研究	八
時報／六月創作月報(一)／文壇消息／転居／旅行、滞在、著書近刊／雑誌消息／演芸界／美術界／音楽界	八
文士出生地一覧(二)	八
思出の記(四)	九
ドストエフスカヤ夫人	九
井田孝平訳	九
茶ばなし／日焼け	九
兎耳郎	九
御兄弟芸術家活動番附／出世の名案	九
小泉八雲の業績	九
K	二
生	二
新刊総覧五月(上)	二
短歌／俳句	二
権威ある逍遙選集の締切迫る	二
『愛は強し』(読後の感)	二
小松明	二
(※吉野臥城の遺言、「文芸行動」の記事)	三
(※主要広告—帝大英文学会編「英文学研究」第六第一、「世界二百文豪」、「文芸戦線」、「新小説」六月一幕物号、「文章往来」六月号、「哲学講座」、春陽堂出版、「隨筆」創刊号、今東光訳編(ラフカディ	三

オ・ヘルン著)「小泉八雲隨筆集」、村山勇三訳(エドモンド・バーク著)「美と崇拜」、映画脚本懸賞募集、文芸春秋社編「文芸講座」)

第十四号(欠)

第十五号(六月下旬号)

大正十五年六月二

十五日発行 一二面

音楽と文学とに就いて

上司 小剣 一

日本の戯曲界と表現派的精神(一)

倉田 百三 一

醉中言(三)

葛西 善藏 一

作品の寿命

松岡 譲 二

偶感二片

戸川 貞雄 二

紅茶のあと／文士の陰謀?

前田河広一郎 三

一問四方の読書(一)

宇野千代氏に寄す

女流作家の二つのカレント—(宇野千代氏に寄す)

生田 花世 三

大衆文芸雑考

大木 雄三 四

毒言録

一碧 洞 四

松竹座の磔茂左衛門(演芸)

笹 廻 家 四

通俗小説暗流誌(六)／御念の入った焼き直し

豊田 豊 五

円朝に関する三つの催し／展覧会／講演会／法事／

三遊亭円朝の作品の特色／人としての円朝の風格

／円朝の作品一覧／全集予約規定

(※宮島資夫、菊池寛、長谷川巳之吉、白井喬二、

津田光造、ロシヤ文壇社、春陽堂、石井雄之助、

小揚月楼などの記事)

(※秋田雨雀、今東光、片岡鉄兵、吉田絃二郎、藤

森成吉、石井雄之助、小揚月楼などの記事)

新劇俳優月旦(田)／畑中蓼坡／伊沢蘭奢 久 吉

劇道革弊

演芸常識劇場隠語解

俳句

時報／七月創作月報(一)／文壇消息／転居／旅行滞在

／集会／図書近刊／雑誌消息／演芸界／美術界／

音楽界

思出の記(十一)

ドストエフスカヤ夫人

文壇独身未婚者大番附

井田 孝平 記

非数理的な話

坂本書店の温古叢誌について

松 波 生

短歌

新刊総覧

無名著述家と出版業者(一)

小林麗華

新刊紹介／南方閑話(南方熊楠著)／貢太郎俳句集

(田中貢太郎著)／華麗な十字街(井上康文著)

／白画像(清水暉吉著)／猫と人間(春舟郎著)

／白く塗れる墓(春舟郎著)

途上散見

(※主要広告)「世界二百文豪」、野口米次郎ブックレ

ット、矢野峰人著「近代英文学史」、矢野峰人著「詩

学雑考」、井東憲著「有島武郎の芸術と生涯」、田中

清一著「詩集彷徨へる希臘の神々」、実業之日本社出

版、春陽堂出版、博文館旅行書類田山花袋著「温泉め

ぐり」他、「新小説」七月特輯南蠻紅毛号、「文章往

来」七月特輯近代劇号、「文芸春秋」七月号、「文芸

戦戦」七月号、「文芸行動」七月号)

第十六号(七月下旬号)

大正十五年七月二

十五日発行 二十面

日本の戯曲界と表現派的精神(三)

倉田 百三 一

私の欲する人形芝居的作品

豊島与志雄 一

ある莊嚴—備忘録から—

尾崎 士郎 一

自己盲執の耳

細田 源吉 二

出版道徳その他／「戦争」出版に就て

綿貫 六助 二

皮肉な話／禿は老ひのシンボルか／近頃大流行の宣
伝講演で不二が頭割十五円の儲け

煙草の煙

一間四方の読書(三)

六月の性慾(※短詩)

解嘲

新感覺派とクロスワード・パズル

『三角形の太陽』を読んで

作者探／当選発表

七月の小説／『街へ出るトンネル』其他

閑話休題的劇壇史―明治より大正へ― 鍵山 博史

(※広津和郎、新島栄治、近松秋江、前田 豊田ゆたか

河広一郎、坂本石創などの記事)

話の種／歌人と犬

羨しい艶福

(※正木不如丘、大泉黒石、藤森成吉などの記事)

新劇俳優月旦(六)／井上正夫／水谷八重子

文壇展望

短歌

時報／七月創作月報(二)／文壇消息／転居／旅行滞在

／集合／図書近刊／演芸界／美術界／音楽界／映画界

思出の記(十二)

『愛慾』を観る

帝劇瞥見

文芸物発禁番附

鈴木正彦氏訳『源氏物語』を読んで

左傾雑誌悉く発売禁止

俳句

新刊総覧

無名著述家と出版業者(二)

泰東社に与ふ(公開状)

ダムのバー／海の外の話

浮世絵の鑑照／『浮世絵十八考』に就て

桃花扇

一葉を偲ばれた令妹邦子さん逝く

最近注目される文芸雑誌二三

春陽堂発行六大全集の経過

永井荷風氏著「荷風文庫」／岡本綺堂氏著「青蛙堂

鬼談」／浅田一氏著「法医学教育の窓から」

ドストエフスカヤ夫人 八〇九

井田 孝平訳 九

洋之介 九

南 甲子 九

碧 郎生 九

眼 白 〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

新刊

王手飛車取り

正木不如丘

一五

金槐集私鈔

斎藤 茂吉

一五

学者気質／小酒井不木博士著

一五

彗星江戸生活研究

一五

春陽堂より

一五

文芸時報読者の頁(一)

北沢喜代治

一六

作さんと妻(短篇小説)

吉井 孝一

一六

「星を売る店」と私(感想)

井上 雅子

一六

と或る途上(詩)

坂本 順一

一六

檄す(詩)

山中 映村

一六

秋声と順子

一六

短歌／俳句

一六

無用学博士著「閻魔帳」／ヴィルドラック作「商船」

一六

船

一六

文芸時報読者の頁(二)

ペン先

和田 嘉夫

一七

短詩四篇

中野 勇雄

一七

出版界のバチルス／原稿泥棒

藤 森 生

一七

鬼ごっこ(童話)

山崎 一郎

一七

雑誌の定価

田歌 葉子

一七

短歌／俳句

一七

生みの苦み(小説)

新井 紀一 二〇

劇道革弊

げきどう・かくへい 二〇

茶ばなし

M・M・M 二〇

廉価雑誌時代／元祖争ひ広告競べ

一 小 僧 二〇

諸者通信

二〇

(※主要広告—小川未明著「海から来た使ひ」、小川未明著「堤防を突破する浪」、小川未明著「未明感想小品集」、小林鶯里著「文章春秋」、早稲田文学「茶百年記念号、春陽堂出版、「世界二百文豪」、鈴木正彦訳「源氏物語」、坂ノ上言夫著「拷問史」、辻本浩太郎著「強い男」、「文芸行動」七月号、「江戸軟派全集」)

第十七号(第二十五号(欠))

第二十六号 昭和二年二月十日発行 八面

新劇運動の促進／並に新劇協会のことについて

久保田万太郎 一

大正文壇と文章(一)

千葉 亀雄 一

談話と随筆

室生 犀星 一

銀の自動車

上 司 小 剣 一

映画の時代へ／伝へられた噂—夢想と現実

一

カフエを出ると(※短詩)

人生と退屈

短歌

思ひ浮ぶまゝを／『続小説道管見』を読んで

娘子軍(二)

(※菊池寛、今東光、小川未明、松本淳三、橋爪健
などの記事)

俳句

(※岸田国士、武野藤介、大木篤夫、三石勝五郎、
内藤辰雄、草野心平、豊田ゆたかななどの記事)

取消し

今日の文壇

新劇俳優月旦(十三)／守田勘彌

明治劇壇名優逸話／岩井半四郎

二月の帝劇

創作月報二月号(一)

変態日本画壇史／(二) 文展以前

横暴なる朝鮮書籍組合

新刊総覧二月

時報／文壇消息／集会／転居／美術界／映画界／演

今東光 二

加藤 四朗 二

佐々木味津三 二

葉山 嘉樹 三

永見徳太郎 三

中河 与一 五

堀口 久吉 六

東西 生 六

久須 亭 六

豊田 豊 七

竹治 溪泉 七

新刊総覧二月 七

時報／文壇消息／集会／転居／美術界／映画界／演

新刊雑誌紹介(二月)

(※主要広告―春陽堂出版、「文芸春秋」二月号、無座
階級文芸雑誌「原始」二月号、「世界二百文豪」、宮
地嘉六著「小説作方講話」、米田祐太郎訳著「絵図玉
嬌梨」、磯清著「随筆吉備暖語」、宮武省三著「習俗
雜記」、「明治文芸研究資料目録」、「地上楽園」、
「文芸公論」二月号、「著者と読者」)

第二十七号 昭和二年二月十七日発行 八面

藤森君の「馬の足」のことを話せと言ふから

芸界

科学と文芸

談話と随筆(二)

ある理想家

今日の文壇

真の文学史を書く人及び作品の評価に就いて

ユーモアの独自性／滑稽文学の価値に就いて

五行言

芥川龍之介 一

吉田絃二郎 一

室生 犀星 一

井東 憲 一

小川 未明 二

梅田 寛 二

五行子 二

五行言

二月近刊雑誌紹介(一)

ニヒリストの芸術／破壊と渾沌が生む『ひらめき』

運命(※短詩)

放語へのお答へ(一)／浅原六朗君に

文芸家協会へー征矢一

(※新居格、加藤武雄、伊福部隆輝、松本淳三、細田源吉、須藤鐘一、前田河広一郎などの記事)

報知新聞の欄外空白

(※佐藤春夫、野口雨情、福永換、仲木貞一、菅忠雄、神話伝説大系などの記事)

噂さ壺／恋の殿堂

印象／口競べ／或日の講演会より

変態日本画壇史(三)文展デビュー

出版界片々

海外劇壇消息

近代座を観る

時報／文壇消息／転居／美術界／映画界／演劇界／

ラデオ界

読者室

娘子軍(三)／南国をめぐる...

呆れた出版業者／ばかり週報社

二

古館清太郎

生野 純

林 房雄

龍川 亭

田源吉、須藤鐘一、前田河広一郎などの記事)

田源吉、須藤鐘一、前田河広一郎などの記事)

田源吉、須藤鐘一、前田河広一郎などの記事)

田源吉、須藤鐘一、前田河広一郎などの記事)

田源吉、須藤鐘一、前田河広一郎などの記事)

田源吉、須藤鐘一、前田河広一郎などの記事)

田源吉、須藤鐘一、前田河広一郎などの記事)

田源吉、須藤鐘一、前田河広一郎などの記事)

田源吉、須藤鐘一、前田河広一郎などの記事)

田源吉、須藤鐘一、前田河広一郎などの記事)

田源吉、須藤鐘一、前田河広一郎などの記事)

田源吉、須藤鐘一、前田河広一郎などの記事)

田源吉、須藤鐘一、前田河広一郎などの記事)

田源吉、須藤鐘一、前田河広一郎などの記事)

田源吉、須藤鐘一、前田河広一郎などの記事)

田源吉、須藤鐘一、前田河広一郎などの記事)

新刊総覧二月(二)

二月創作月報(二)

(※主要広告一春陽堂出版、「漢籍国字解全書」、小林篤里著「国民叢書」、「世界文学全集」)

第二十八号 昭和二年二月二十四日発行

面

創作の標置とチャナリズムに就て 徳田 秋声 一

生活感情の不足／最近のプロ文学に於ける 細田 民樹 一

漫談(一)／貧乏 葛西 善藏 一

文壇毀譽褒貶一二月(一)(※山内房吉、堀木克、堀克

三、中村武羅夫、古館清太郎、目黒十郎、今東

光、久米正雄、青野季吉、宇野浩二、藤森成吉、

小堀甚二、吉仲豊、大槻憲二、戸川貞雄などの論

の紹介)

農村問題と農民文学の方向 本間 久雄 二

辯明と解嘲 今 東光 二

青の定期／但し期限は来月中 菅 忠雄 二

文壇片々 東行 亭 二

三月創作月報(一)／新刊紹介

三月創作月報(一)／新刊紹介

七

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

詩のある作家／丸山梶井二君の散文に就て

想ふ(※短詩)

放語へのお答へ(一)／浅原六朗君に

(※前田河広一郎、高山樗子、金子洋文、小牧近江、久米正雄、横光利一、雑誌「手帖」、尾崎一雄などの記事)

(※加藤武雄、高橋新吉、中河与一、藤森淳三、堤寒三などの記事)

変態日本画壇史／(四) 文展の功罪

武野藤介君の活躍―読者の声―

文壇副業内職番附

読者室

どん底を歩く作家の生活(一)／鳥山の牛小舎で鯛を

噛って貧乏小説を書く岡下君の話

出版界片々

新刊総覧二月(三)

時報／文壇消息／旅行滞在／集会／転居／美術界／

演芸界／音楽界／映画界／ラヂオ界

新刊雑誌紹介―(二月号ノ三)

(※主要広告―春陽堂出版、「神話伝説大系」、吉田絃二郎著「小説かゝやく小川」、アンドレエエフ傑作戯

百田 宗治 三
中山かずみ 三
林 房雄 三

四

五

六

六

六

七

七

七

七

八

八

八

曲選集「飢餓王上巻」、バアナド・ショウ「聖ジョウ
ン」、「文芸春秋」三月戯曲号、「世界二百文豪」、
「世界大思想全集」)

第二十九号、第三十号(欠)

第三十一号 昭和二年三月十七日発行 八面

大衆劇の将来／ネオメロドラマの主張 中村 吉蔵 一
プロ派の批評／僕の「街路の人々」に就て

吹き拂はれる冬(一)

文壇展望(※堀木克三、新居格、飯田豊二、奥川夢

郎、中野正人、湖山貢、飯島正、小野十三郎、山

田清三郎、長谷川清、河合哲夫、浜田広介、戸川

貞雄、尾崎士郎などの論の紹介)

出版界の近況／廉価本全盛に就て

遊離(※短詩)

非沙門亭漫筆(近松氏対宇野氏／岡田三郎論／無学

とは)

文壇片々

短歌

(※講談社、松岡譲、「憂鬱なる愛人」などの記事)

豊島与志雄 一

細田 源吉 一

文壇 二

田清 二

貞雄 二

出版 二

遊離 二

非沙門 二

とは 二

文壇 二

短歌 二

講談社 三

(※今東光、草間実、プロ派文士、「改造」、山田

清三郎、金子洋文、曾我之家五九郎、間宮茂輔な

どの記事)

海の外の話

山中 静也

四

紹介(※福田正夫「幻の麗人」、加藤武雄「狂想

曲」、北村小松「猿からもらった柿の種」など)

近刊紹介(小野田益三編「一番鶏は鳴く」)

(※大泉黒石、今東光、菊池寛などの記事)

隣の噂

免の耳

五

編輯者に糾す／私とテルノフスカヤ嬢に關した記事

に就いて

新嶋栄治

五

劇界を予言す／中るか、中らぬか

伊原青々園

六

変態日本画壇史／(七七)統警告七箇条

豊田 豊

六

高松プロダクションと私との關係に就いて

今 東光

六

時報／文壇消息／転居／集会／旅行滞在／美術界／

音楽界／演芸界／映画界

読者室

半 可 通

六

出版界片々

七

感謝すべき努力／日本戯曲大全

七

新刊総覽

七

文壇推薦録(三)／広津和郎

洗身亭主人

八

出版屋と銀行

鯛の骨

八

新刊雑誌紹介—三月の四—

八

新刊紹介(ヴイルドラック作「郵船テナイシテイ

号」)

八

(※主要広告—春陽堂出版、全集もの、「世界二百

文豪」、「郵船テナシチイ号」、佐々木信綱著「抄

訳袖珍万葉集」、「改訂註釈楞牛全集」、「紅葉

全集」、「文芸公論」四月創作特大号、「啄木隨筆

集」、「文芸創造」、西村陽吉著「口語歌集晴れ

た日」、炭光任著「口語歌集旅がらす」、中村孝

助著「口語歌集土の歌」、後藤史郎著「口語歌集

空に咲く花」)

第三十二号 昭和二年三月二十四日発行

八

面

小説の読者／文芸の鑑賞と評價

芥川龍之介

一

創作上の態度／人生に対する興味の感じ方と作品

加能作次郎

一

吹き拂はれる冬(二)

細田 源吉

一

文壇展望(※芥川龍之介、佐藤春夫、片上伸、山田

清三郎、岩崎純孝、中村還一、田口憲一、赤木健

介、生田花世、土田杏村、宮地嘉六などの論の紹介)

文芸の自由性／及び個人の自由性に就いて

眞の農民文学

抗議

創作月報—四月ノ一—

大衆文芸といふ名称の起因と真意に就いて

春の夜の幻想(※短詩)

藤村老の處女作

(※岡田八千代、藤懸静也、川路柳虹、片岡鉄兵、

藤森淳三、横光利一、楠敏郎、石川三四郎、望月

百合子などの記事)

(※中西伊之助、後藤誠雄などの記事)

作家の癌

抗議一件／「紙幣束」の記事に就いて

映画脚本への注文／日本映画の非芸術的な理由

変態日本画壇史

海外劇壇消息

時報／文壇消息／転居／集会／美術界／音楽界／演

芸界／映画界／ラヂオ界

新刊雑誌紹介—三月ノ五—

出版界盛衰記(一)

出版界楽屋話(一)

交蘭社／飯尾謙蔵君(二)

絵雑誌閑談(一)

新刊総覧

文壇推薦録四／佐々木味津三

短歌

(※主要広告—春陽堂出版、「神話伝説大系」、

「早稲田文学」四月特別号「明治文学号／開化期

研究」、北村小松著「戯曲集／猿から貰った柿の

種」、北村喜八「新しき演劇へ」、「懐しの国」、

「未刊隨筆百種」、「文芸春秋」四月特別号)

第三十三号(欠)

第三十四号 昭和二年四月十四日発行 八面

次に来る文学／ニイチエ時代の再来 武者小路実篤 一
徳田秋声氏の芸術／来るべき転換を想ふ

食物として

長田 幹彦 一
芥川龍之介 一

半可 通人 七

鰯の 頭 七

二等 卒亭 七

X Y Z 七

洗身亭主人 八

八

八

八

文壇展望(※木蘇穀、松原敏夫、花田徹太郎、湖山

貢、川合仁、飯田徳太郎、岩崎純孝、広津和郎、

谷崎精二などの論の紹介)

芸術の進化と創造／小説の人氣に就いての考察

私は今日も(※短詩)

二児の父となりて(一)

プロ文芸と技巧／並に農民文学の前途

非沙門亭漫筆(三)／今君へ御返事

何つちがほんととか(一)／小山内薫氏へ

(※武野藤介、佐々木茂索、安成二郎、国展と春陽

会、十一谷義三郎、石浜金作、菊池寛などの記事)

創作月報(四月ノ二)

(※細田民樹、横光利一、武野藤介、講談社、「世

界戯曲全集」と「近代劇全集」、第一書房、博報

堂、春陽堂などの記事)

文壇推薦録(田／宇野千代 洗身亭主人

変態日本画壇史／(一〇)続裸体画の問題

室生犀星限定詩集の刊行について

時報／文壇消息／旅行滞在、転居／集会／美術界／

音楽界／演芸界／映画界／ラヂオ界

短歌

出版界盛衰記(三)

出版界の危機／合同と共同金融論

玄黄社／鶴田久作君

新刊総覧

嫉妬(※小説)

新刊雑誌紹介—四月ノ三—

創作月報—四月の四

(※主要広告—春陽堂出版、加藤武雄著「長篇小説

狂想曲」、佐々木信綱著「旅と歌と」、「世界二

百文豪」、小林鶯里著「鶯里隨筆」、小林鶯里

「警鐘の乱打」、小林鶯里「俳趣情景」、「世界

戯曲全集」)

第三十五号／第五十二号(欠)

第五十三号 昭和三年一月一日発行 一二面

(うち五／八面欠、新年附録「トルストイの

肖像」か)

冬日雜想

私の疑問に就いて

断想

半可 通人 七

無可有山人 七

二等 卒亭 七

松丘 良 七

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

德田 秋声 一

中村 星湖 一

尾崎 士郎 一

金沢地方 (三) / 和倉温泉	永見徳太郎	一	抗議	室伏 高信	二
文壇展望 (※永井荷風、青野季吉、今東光、里村欣三などの論の紹介)	一	新刊総綱	新年の大附録に就いて / 新春の興行界 / 新進の陣立 / 阪妻撮影所より	三	改造 / 新潮 / 中央公論 / 太陽 / 文芸春秋 / 文章俱樂部 (※所載内容案内)
文学の大衆的進出 / 及びスポーツに就いて	二	佐々木味津三	二	下村 悦夫	二
春五句 (※俳句)	二	芳賀 融	二	萩原朔太郎	三
芸術小説の問題	二	文学形式私見	三	藤井 眞澄	三
新人倶楽部組織さる / 雑誌「文芸都市」を発行	二	一月創作月報 (一)	二	山・静	三
宣伝映画の発達	三	海の外の話	三	第五十四号 / 第五十九号 (欠)	第六十号
昭和二年度雑誌創刊廃刊調べ	四	文壇消息	四	イブセン生誕 / 百年記念祭に就いて	中村 吉蔵
出版界盛衰記 (二十)	九	(※市川百之助、五月信子などの記事)	四	選挙雜観	藤森 成吉
読者に薦む / 「半峰昔ばなし」を読んで	二	半可 通人	二	今日の文壇	大阪のカフエー (二)
芸界消息	二	多 恵 生	二	文壇展望 (※正宗白鳥、尾崎士郎、今東光、片岡鉄兵の論の紹介)	永見徳太郎
平凡社 / 下中彌三郎君	二	二等 卒亭 二	二	兵の論の紹介)	一
				新刊雑誌紹介 (三月ノ三)	二

(※里見弴、菊池寛、島田清次郎などに関する記事)	三
左団次の披露／及び劇壇の傾向など	四
池田 大伍	
左団次と吉右衛門／伊国歌劇団／岡田嘉子の盗難	四
(※演劇関係記事)	四
資本主義制度下の映画人	五
今 東光	
牛原虎彦君の災難／帰朝するジョージ桑氏／サーカス／愛子の「雲雀」／トムミックス氏／ファウス	五
トの試写 (※映画関係記事)	五
三月雑誌総目(二)／中央公論／改造／文芸春秋／新潮	五
／文章倶楽部／騷人／文芸道／文芸／戯曲研究／	
文芸都市／吾妹／文芸戦線	六
新刊雑誌紹介(三月の二)	六
(※主要広告)「漱石全集」、春陽堂出版、「世界二百	
文豪」、渡辺均著「祇園十二夜」	六
第六十一号／第六十七号(欠)	
第六十八号	
昭和三年五月三日発行	八面
現代の戯曲と歌舞伎劇に就いて(二)	一
岡本 綺堂	
長篇と短篇	一
吉田絃二郎	
或る手紙	一
下村 千秋	
新派のゆく道	一
久保田万太郎	

文壇展望(※石川三四郎、前田河広一郎、越中谷利	一
一、中野正人などの論の紹介)	
大衆文芸に就て	二
岡田 三郎	
新感情派の提唱	二
田代 倫	
混乱の文壇に際して(二)／その重要なものへの片言	二
芳賀 融	
新刊雑誌紹介—五月ノ二—	二
二つの演出に就て(二)	二
鈴木彦次郎	
「心中救助業」を研究する市川小太夫の苦心／危篤	三
に陥った市川新之助(※演劇関係記事)	三
鴈治郎の二役—歌舞伎座評—	三
薰 生	
五月の帝劇	三
明 誤 郎	
(※中村武羅夫、江口煥、久米正雄、木蘇などの記	四
事)	四
新刊雑誌紹介—五月ノ三—	四
(※佐野袈裟美、辻村もと子、金子洋文などの記	五
事)	五
文壇消息(二)	六
浅岡信夫の殺人車／幽霊を映画に／海外映画消息／	
南光明を迎えて／阪妻へ新入社／シネマ界噂ばな	
し(※映画関係記事)	六
五月雑誌総目(二)／中央公論／騷人／文芸春秋／文章	七

倶楽部／悪い仲間／文芸戦線／吾妹／改造／新潮
／文芸道／文芸／地上楽園／明治文化研究／石楠

我が自伝の一頁

荻生 天泉 八

(第九回) 中央美術展に対する言葉

長谷川利行 八

人物月旦／葛谷龍岬君

湯 多 果 八

文壇消息(一)

八

(※主要広告) 林房雄著「鎖」、本山桂川著「長崎
花街篇」、バルザック作「絶対の探求」、本間久
雄著「文学概論」、辻村もと子著「短篇集春の落
葉」、外山卯三郎著「情念詩集」、正富汪洋著
「詩人スウインバーン」、「昭和詩華集」、山添
栄一著「紫霊の曲」、「世界二百文豪」、山本勇
夫著「在原業平」、十一谷義三郎著「生活の花」
「新訳源氏物語」)

第六十九号(美術版) 昭和三年五月十日発
行 六面

今年の菊池塾展
春陽会の素描室
音楽の魅力

菊池 契月 一
森田 恒久 一
上原 桃畝 一

読画会展小評

今期春陽会に就て

美術界の展望

美術界消息(二)

三

(※中村大三郎、荒木十畝、藤田嗣治、小早川秋
声、尾竹国観、春陽会と国画創作展などの記事)

二〇三

(※「苦楽」「女性」、プラトン社、「キング」、
主婦の友社など出版関係記事)

四〇五

出版随想灰皿の塵

退耕生 四

正誤

吉野 作造 四

新刊総覧

四〇五

新刊紹介／支那綺談阿片室(後藤朝太郎著)／詩の
形態学的研究(外山卯三郎著)／死の書(庄野義
信著)／岐阜の伊奈波音頭(野口雨情作)／石楠
自選句集(沖本希三著)／詩集紫霊の曲(山添栄
一著)／詩集ジアニンの歌章(ジアンヌ・アー
ラン原作)／尚美展覧見会画冊(関長次郎編)／
春の落葉(辻村もと子著)

五
修省堂／金井玉三郎君 二等 卒亭 五
宛ら無人の境を行く偉観 内田 魯庵 六
東京の本屋／「一九二八」年誌創刊さる 六

曲田 豊人 一
木村 莊八 一

美術界消息(一)

六

(※主要広告―中山太郎著「売笑三千年史」、石田元季編著「校定註釈鶉衣」、下村悦夫著「悲願千人斬」)

第七十号(第七十一号(欠))

第七十二号 昭和三年六月七日発行 八面

北斎に就て

武者小路実篤

一

挿絵に就て

石井鶴三

一

長篇もの今昔観(三)

馬場 孤蝶

一

国展の出品洋画

川島理一郎

一

灰皿の塵

退 耕 生

一

文壇展望(※久保田万太郎、袋一平、大河原浩、小

宮山明敏、松村文一、金子益太郎、北川健一郎の

論の紹介)

一

新劇?新劇??

北村 喜八

二

原稿料の思出など(一)

加藤 謙

二

「果樹園」出すに際して(一)

足立直郎

二

阪妻プロの『怪船』改題『凡生奈落』

二

五月創作月報(一)

二

諸展覧会一瞥評

鞍馬 樵人

三

帝劇を観る/山添氏の『紫霊の曲』

三

(※武林無想庵、中西伊久助などの記事)

四

昔の話

天・山

四

小沢映画聯盟独立第一回作品『喜びの町』

四

(※川北霞峯画塾蒼きう社、甲斐莊楠音、別府貫一郎、松本泰などの記事)

五

(※池永所長、筑波雪子、田中義一などの記事)

六

(※池永所長、筑波雪子、田中義一などの記事)

六

日本画界消息/洋画界消息

六

(※小泉準一の記事)

七

金子出版部/金子専一郎君

一等 卒亭

七

帆刈君文壇に躍出か

香 村 生

七

出版往来

七

新刊総覧

七

メトロ社特作「紅唇百万弗」/「水野十郎左衛門」

七

/阪妻が取締役辞任/安田監督ふるへ上る/六月

七

の劇界/海外映画消息/画家チャールススミス氏

七

近く

八

六月創作月報(一)

八

(※主要広告―朝倉無声著「見世物研究」、中山太郎著

「売笑三千年史」、石田元季編著「校定註釈鶉衣」、

「果樹園」創刊号、谷口梨花著「旅行礼讃」、高岡辰

子著「照葉懺悔」、「世界二百文豪」、西村真次著

「万葉集の文化史的研究」、本間久雄著「文学概論」、

「支那珍本目録」、芥川龍之介著「湖南の扇」、
「泡鳴全集」、「子規全集」、黒島伝治著「豚群」、「哲
学講座」)

第七十三号(第二百二号(欠))

第三百三号(美術版) 昭和四年四月十八日發
行 四面

鑑査に就て

山元 春栄

一

書道の荒廃と書と絵の關係—私の個人展に就て

池上 秀畝

一

暗示と剽窃／私の「大塔宮」と「尊氏像」

服部 有恒

一

挿絵家の使命／小説の第一の読者となれ／二つの芸
術の融合

伊東 深水

一

(※鑿川光男、岡田三郎助、新道繁、「恋」などの
記事)

記事)

二

(※川合玉堂、松岡映丘、パリ―で五月邦画展など
の記事)

五月／美術界の盛観

伝 令 使

三

新居にて

青山 熊治

四

名宝展の絵画(一)

豊田 豊

四

時報(※美術關係)

小金井小次郎

四 四

(※主要広告—春陽堂刊行書、徳田秋声・武者小路実篤
二氏の揮毫を頒布す)

第四百号(欠)

第五百号 昭和四年五月九日發行 四面

花卉雜言

杉浦 非水

一

杉浦非水氏の芸術(坂井犀水／小川千甕／小寺健吉
／高島勝多／今村信／金井紫雲／水上泰生など)

／高島勝多／今村信／金井紫雲／水上泰生など)

(※「本草綱目」の宣伝)

東亞作品／混線行進曲

(※主要広告—杉浦非水編「非水百花譜」、春陽堂新館
落成記念出版)、「本草綱目」)

落成立念出版)、「本草綱目」)

落成立念出版)、「本草綱目」)

落成立念出版)、「本草綱目」)

第六百号(美術版)

昭和四年五月十六日發

行 四面

広業先生の思ひ出—恩師の十一回忌に会して

蔦谷 龍岬

一

春陽会／最近の傾向／大体にスランプに落ち入った
状態

長谷川光孝君の死

中川 一政 一
児玉 希望 一

春陽展の呼物から／問題を新にした／小説挿絵の間

題／中川画伯出品の「生ける人形」挿絵

一

読画会の進出と――酬はれた感激

永田 春水 二

(※飛田周山、安田鞆彦、山口蓬春、上野山清貞、

寺崎広業、国展入選者などの記事)

二

(※伊東深水、主流派第二回展、春陽会、木村莊

八、中川紀元などの記事)

三

国画会を観る／確立された団体的個性

豊田 豊 四

秀畝氏の多才／新作二十点の陳展を観て

T 記者 四

時報／消息／展覧会／春陽会入選者

四

(※主要広告――春陽堂刊行書)

第百七号(第百八号(欠)

第百九号(美術版) 昭和四年六月六日発行

四面

明治洋画壇の先駒者寛畝先生／日本画に歸ったその
悟り

第一美展の独逸新作品

池上 秀畝 一
中原 実 一

時報／消息／移転／展覧会

一

(※鳶谷龍岬、原藤四郎、青山熊治、藤田嗣治、六

月第二週封切映画、小林古経、伊東深水、尚美堂

展、京都塾展などの記事)

二、三

柘榴社／第三回展に就て

鈴木信太郎 四

国際美術展開催に就いて／考慮した色々

上田 昭夫 四

挿絵展覧会を観て

E 記者 四

東京会展の印象

T 記者 四

恵む春青山画伯の結婚／各会受賞者

四

(※主要広告――松田青風著「歌舞伎倭草」、尾崎紅葉作

「金色夜叉普及版」、鈴木三重吉著「黒い騎士」)

第百十号(欠)

第百十一号(美術版) 昭和四年六月二十七日

日発行 四面

芸術は創造が根本／演劇の「型」と美術の伝統に就

て 荒木 十畝 一

審査に就ての考察／凡作入選は合議制の弊

松林 桂月 一

日本画と洋画

早苗会と新樹社

時報／消息／展覧会

(※「中央美術」、田口洵汀、第一回国際美術展、

朱葉会、小室翠雲、春拳画塾などの記事) 二、三

国際美術展の日本画 豊田 豊 四

同舟舎展を觀て 斎藤 二男 四

六月の諸展／奈良の正倉院に耐震耐火施設／美術院

新会員審査員及推薦決定す

(※主要広告―尾崎久彌編「洒落本集成」、板橋倫行校

訳「日本靈異記」)

第百十二号～第百十三号 (欠)

第百十四号 (美術版) 昭和四年九月十八日

発行 六面

院展出品の諸作―特に印銘深きもの数点―

松岡 映丘 一

「名木散椿」と修学院時代の思ひ出 速水 御舟 一

時評／時報／今年の帝展作／消息／院展入選者／南

画展入選者

(※鍋井克之、黒田重太郎、東郷青児、川村清雄、

結城 素明 一

ゆたか生 一

一

幸田露伴、西村五雲、下村観山、小室翠雲、藤田

嗣治、山口蓬春、伊東深水、二科展初入選者、銭

瘦鉄などの記事)

新刊雑誌紹介 (八月の二)

二科概評

院展、二科、青龍社

九月雑誌総目／中央公論／改造／文芸春秋／新潮／

文芸戦線／文芸道／地上楽園／文学時代

創作月報 (八月)

二科入選者

九月雑誌総目／婦人公論／婦人サロン／婦人倶楽部

／婦人世界／婦女界／キング／富士／朝日／文芸

倶楽部／講談雑誌／現代

秋の展覧会―(一)―

(※主要広告―浜本鶴賓著「支那情愛文獻」、島崎藤村

著「新生」合本普及版、「探偵小説全集」)

第百十五号～第百十七号 (欠)

第百十八号 (美術版) 昭和四年十月三十一

日発行 八面

帝展の日本画／拙作「平治の重盛」其他

松岡 映丘 一
実景の写生に就いて／絵に現れた鳴門のことなど

川北 霞峰 一

日本画の傾向／帝展日本画部を通覧して

藤島 武二 一

一隅より／時報／消息／展覧会

(※第十回帝展、新燈美術院神戸研究所、京都に於ける日本画壇、小西謙三、昭和洋画奨励賞受賞伊原宇三郎、帝展雜觀、洋画入選者(一)などの記事)

(※菊沢武江、鳶谷龍岬、菊池華秋、登内微笑、「婦女界」などの記事)

秋の展覧会／第十回帝展の諸作

帝展特選／洋画入選者(一)

十一月雜誌要目(一)／婦人公論／婦人サロン／婦人俱樂部／婦人世界／婦女界／現代／雄辯／富士／講談俱樂部／朝日／文芸俱樂部／講談雜誌

十一月一回帝展／帝展雜報

十一月雜誌總目(二)／中央公論／改造／新潮／文芸春秋／文芸戦線／文芸道／地上楽園／文学時代

帝展の日本画と洋画

新刊雜誌紹介(十月の三)

(※主要広告―菊池寛著「東京行進曲」)

豊田 豊

八

七

七

六

五

四

三

第百十九号(欠)

第百二十号(美術版)

昭和四年十一月二十一日発行 四面

画人の心境―竹田と竹洞の画論―

人間、木華開耶姫／私の創作した態度に就いて

日本風な洋画を描くと云ふ事に就いて

一隅より／時報／消息／展覧会

新刊雜誌紹介(十一月の二)

(※榊原紫峰、石崎光瑤、七絃会、淡交会、荒木十畝、小林古径、東京会、大倉喜七郎、市村羽左衛門、帝展、伊太利日本画展、大観、映丘、堅山南風、雙杉俱樂部、五姓田芳柳などの記事)

統第十回帝展評

新刊紹介／楽しきスケッチ画法(横井弘三)／新労農党の批判(近藤栄義藏著)／芋と鼠っ子(中井繁一著)

創作月報(十一月の二)

(※主要広告―「東西素描大成」、喜多壮一郎著「カフエー・コーヒー・タバコ」)

豊田 豊

四

四

四

二

一

一

一

一

第二百一十一号（第二百二十四号（欠））

第二百二十五号（美術版） 昭和五年二月二十

日発行 四面

「朝鮮屏風」を観て

漫画から本格画へ移って行った動機

第五回国展に就て

一隅より／時報／消息／移転／展覧会

（※榊原縫子、吉村忠夫、大村広陽、松岡映丘、平

福百穂、第一美術展、月皎画伯個展、光風会展、

一曜会展、根上富治男、山口蓬春、藤田嗣治、近

藤浩一路、豊田豊、冷泉為恭など記事）

日本アンパン展の開業

国画展の概評

巷の塵

（※主要広告―相馬御風著「訓詁良寛詩集」、高山樗牛
著「絵入瀧口入道」、矢部善三著「年中事物考」、豊
田豊著「栖鳳大観比較論」）

第二百二十六号 昭和五年二月二十七日発行

八面

新劇壇の人々に（前承）

プロレタリア大衆文芸の将来

所謂大衆文芸を難す

時報／消息／執筆・近刊／雑誌消息／移転／旅行滯

在／集会・講演

（※「久米正雄全集」講演会、柳原白蓮、松本淳三、

江木欣々、松居松翁、宇都宮書店、吉屋信子、

十一谷義三郎、単行本時代、猿之助などの記事）

新刊雑誌紹介（二月の二）

（※中村歌右衛門、福助、市川猿之助、映画批評家

協会、検閲制度改正、三月の各座、三月第一週の

映画、横尾泥海男、岡田三郎助、伊藤大輔、唐沢

弘光、實川長三郎、嵐寛寿郎、音楽春秋、陽春映

画シーズンなどの記事）

三月雑誌要目（一）／婦人公論／婦人サロン／婦人倶楽

部／婦人世界／婦人界／キング／富士／講談倶楽

部／朝日／文芸倶楽部／講談雑誌／雄辯

偶像崇拜を排す

（※製本界、鹿逐ふた出版人、経営難の根源、国定翻

刻会社、自由競争など出版関係記事）

松居 松翁 一

白井 喬二 一

本山 荻舟 一

一

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

創作月報（二月の二）／新映画紹介

新刊総編

出版往来

竹葉 山人 七

（※二村定一、伊庭孝、歌劇「椿姫」、伊太利大歌劇団、東京合唱団、宮城道雄、藤原義江、映画拡声器、新映画紹介など音楽映画関係の記事）

（※主要広告―「久米正雄全集」）

第二百二十七号（美術版） 昭和五年三月六日

発行 四面

支那に遊んで

林響君の死を悼む

警拔な独自の作家／林響画伯略歴

時報／受賞者／展覧会

（※平福百穂、松岡映丘、山口蓬春、根上富治、郷土会、日本水彩画展、太平洋画会展、林響画伯の葬儀、池上秀畝、若葉会、加藤静児個展、美術全権三画伯などの記事）

槐樹社展を観て

三月雑誌要目（二）／中央公論／改造／文芸春秋／新潮

／文芸月刊／文芸道／文学時代／詩と詩論／短歌

月刊

新刊雑誌紹介（三月の一）

第二百二十八号 昭和五年三月十三日発行

面

プロ文学私見

近頃の感想

プロレタリア大衆文芸の将来

一隅より／時報／消息／執筆・近刊／移転／雑誌消

息／旅行・滞在／集会・講演

（※室生犀星、菊池寛、武野藤介、「旋風時代」の会、二日会、新劇聯盟第九回公演、宇野千代、高橋邦太郎、中西伊之助、中本たか子などの記事）

（※心座解散、舞踊協会、優志会、三月の帝劇、市村座の新国劇、新映画紹介、筑波雪子、本郷座、ノーマンド、駒田好洋、チャプリン、邦画の進出、映画拡声器など演劇映画関係の記事）

演劇界三月／講談・落語（三月の一）／映画界（三

月の一）

（※講談社、二葉社、「幼女画報」、林平次郎、大

野孫平、返品率、被害の大量注文、大阪系の四新聞、雑誌販売組合、本屋の休憩所など出版関係の

記事)

新映画紹介／新刊総覧

大東館／長井庄一郎君

煙の巷／肩書林立の林平君

(※永井都子、本居長世、オペラ、楽壇新人、ベツ

オールド、田園の会主催「春の歎びの夕」、チェ

ッコ大統領誕辰祝意演奏会、音楽春秋など音楽関

係の記事)

四月雑誌要目(一)／キング／富士／講談倶楽部／朝日

／文芸倶楽部／講談雑誌

創作月報(三月の一)

(※主要広告—「早稲田大学文学講義」)

第二百二十九号(美術版) 昭和五年三月二十

日発行 六面

出藍の才を見る／爲恭の劇其他随想二三

朗峯画塾展の開催に就て

工芸品の芸術価値

花鳥画に就いて

一隅より／世界出版美術史を説む

(※榊原縫子、吉村忠夫、中村岳陵、堅山南風、第

二回奉讃展、小早川清、山川秀峯、松岡映丘など

の記事)

(※朱葉会十二回展、日本美術協会展、行人社第二

回展、佛蘭西新着の工芸品と絵画展、光瀾社第四

回展、川口軌外小品展、服部亮英滞欧個展、朗峯

画塾展、奉讃展の変り種、東風社第三回展などの

記事)

時報／消息／展覽会

途上散見

新刊紹介／盲ひたる旅人(室木豊著)／訳詩集ゲ

テ以後(小栗孝則著)／詩集新しき触手(伴野英

太著)／歌集生命の微光

四月雑誌要目(二)／現代／雄辯／婦人公論／婦人倶楽

部／婦人世界／婦女界

奉讃展の日本画／附、初設の二塾展を観る

第二回奉讃展

(主要広告—相馬御風著「訓詁良寛詩集」、群司次郎正

著「日本嬢」、村山知義著戯曲集「最初のヨーロッパ

石崎

光瑤

一

一

二

三

二

三

二

三

四

五

五

五

五

五

五

五

六

六

六

六

六

パの旗」、和田軌一郎著「若きソヴェートと恋と放浪」)

第三百三十号(欠)

第三百三十一号(美術版) 昭和五年四月十日

発行 六面

私の制作態度

花鳥画随想(承前)

私の奉讃展出品

今度も又魚類を

昨年の不満を満して

蘇州の庭園を写して

時報/団体消息/個人消息/集会/頒布会/展覧会

(※関尚美展、玉堂邸の玄関子、秋田美術第二回

展、開かれた展覧会、山川秀峰、伊東深水、松林

桂月などの記事)

(※青潮社第一回展、先駆社展、飯塚琅玕斎竹器個

展、大乘美術会試作展、馬込美術展、青樹社洋画

傑作展、花見風俗展、木村百木第三回作画展、仙

波均平台湾小品展、帝展会員会議、独逸の日本画

展、三宅克己、有馬さといなどの記事)

四〇五

演劇(四月の一)/映画(四月の一)/音楽・舞踊

(四月の一)

靈華氏の遺作展を観る

寄席(四月の一)

四月雑誌要目/文芸月刊/文芸道/短歌月刊

五月雑誌要目/文芸俱樂部/富士/講談俱樂部/

朝日/キング/講談雑誌

新刊雑誌紹介(四月の一)

(※主要広告—井上通泰著「南天莊墨宝」、

筆)

第三百三十二号 昭和五年四月十七日発行 八

面

囁々として嵐の如き反響/東朝紙上の細田君の一作

/財界に一大恐慌を捲き起す/井上蔵相も憂慮し

東朝幹部を一喜一憂(※記事)

電通の博報堂侵略/捲土重来出版広告奪取戦/主婦

之友、婦女界、中公、続々陥落(※記事)

ジャーナリズムと作家の態度

プロ文学と新芸術派

時報/消息/移転/執筆・近刊/雑誌消息/集会・

長谷川如是閑
今 東光

講演／旅行・滞在

五月の劇壇／五月の邦画／新映画紹介

(※堀口大学、金子洋文、文芸春秋社、青野季吉、

小牧近江、長田幹彦、永井荷風、「早稲田文学」

再刊、「ゴー・ストップ」、村上浪六、二日会、

葉山嘉樹、岩藤雪夫、左翼劇団などの記事)

演劇往来

(※優志会総会、シヨルツのピアノ独奏、新人演奏

会、尾上菊五郎の俳優学校、帝劇の忠臣蔵通し、

市村座の新国劇、新興帝キネ、百々之助プロ、帝

都座、早川雪洲、全日本映画組合総会、映画、映

画拡声器など演劇音楽映画関係の記事)

五月雑誌要目(二)／現代／雄辯／婦人公論／婦女界／

婦人倶楽部／婦人世界／婦人サロン

三省堂／亀井豊治君

創作月報(四月)

(※坂東恭吾、東京開成館、歌人西村陽吉など出版

関係の記事)

新刊総覧

広告料金の不同

誤植物語(二)

(※文洋社福山福太郎、誠文堂の舟遊会、出版年鑑

など出版関係の記事)

演劇(四月の二)／映画(四月の二)／音楽・舞踊

四月の二／寄席(四月の二)

音楽春秋

(※主要広告—長塚節著「長塚節歌集」、里見弴著短篇

集「その人」、「フロイド精神分析学全集」、井東憲

著「国際小説赤い魔窟と血の旗」、大隈俊雄著「戯曲

集吼える支那」、群司次郎正著「處女出版日本嬢」)

第三百三十三号／第三百三十四号(欠)

第三百三十五号(美術版) 昭和五年五月十五

日発行八面

日本画壇の巨星墜つ／下村観山画伯卒然として近く

(※記事)

技巧気格の雄大／観山氏の画壇に印せる業績

温情的な下村さん 安田 靱彦

懇切微に入る—観山氏の後進誘掖— 木村 武山

観山画伯／略歴 川端 龍子

時報／団体消息／個人消息／開かれた展覧会／開か

れる展覧会

(※観山画伯の葬儀、観山氏作品年譜、その他観山に関する記事) 二〇三

(※堀田秋叢、長谷川路可、山川秀峰個展、日佛画廊第一回洋画展、京都博物館五月の陳列、中村岳陵作「牡鹿鳴く」、読画会廿三回展、東京会展、横堀角次郎、田中弘二などの記事) 六〇七

演劇(五月の二)／映画(五月の二)／音楽・舞踊 六〇七

(五月の二)／寄席(五月の二) 六〇七

新興大和総会―第十回展評― 豊田 豊八

新刊雑誌紹介(五月の二)／創作月報(五月の二) 八

(※主要広告―「芭蕉翁遺芳」、現代日本芸術名鑑)

第三百三十六号(欠)

第三百三十七号(美術版) 昭和五年六月五日

発行 六面

洋画壇の沈滞とモデルの街頭進出に就て

満谷国四郎 一

花鳥画随想(三)

石崎 光瑤 一

京都より帰るて

鍋木 清方 一

誤解を解くために／展覧会名改称に就て

青木 兆山 一

時報／消息／受賞者／頒布会／開かれた展覧会／開かれる展覧会 一

(※宇田荻邨、西山翠嶂、松下平三郎、上村松園、

菊池契月、向井潤吉、甲斐莊南、小島善太郎、橋

本関雪、奥村艶子、亀岡崇などの記事) 二〇三

新刊雑誌紹介(六月の一)

(※東京会展、淡交会、瑠派亜土社展、朝倉塾第四

回彫塑展、錦町自由研究所第三回展、童人社第二

回展、稲垣守雄滞欧作品個展、菊池契月塾展、津

田青楓塾展、青甲社塾展、青竹会塾展、蒼穹社塾

展、菁莪会と奥谷塾などの記事) 四〇五

雑誌消息／音楽／遊芸／演劇案内 四〇五

早苗会を観る 豊田 豊六

観賞家より見たる美術界／現代日本画所感 尾崎 敬義 六

六月雑誌要目(三)／新潮／文芸春秋／中央公論／改造 六

／文学時代／文芸道／詩と詩論 六

創作月報(六月の一)／新刊雑誌紹介(五月の三) 六

第三百三十八号(欠)

第三百三十九号(美術版) 昭和五年六月二十

六日発行 六面

六日発行 六面

六日発行 六面

富貴寺の壁画 堂本 印象 一
個性尊重の傾向 平櫛 田中 一
新樹社に就いて 甲斐莊楠音 一
展覧会私見 川端 龍子 一
美術界展望 一

（※郷土会、川瀬巴水、三上於菟吉、伊東深水、三越の絵画展、俳優協会、日佛芸術社展覧会、歩人社第五回展、堀田秀叢、小早川清、飛田周山などの記事） 二、三

（※新樹社展、東台邦画会第五回展覧会、関尚美堂展などの記事） 四

時報／文壇時報／移転／集会・講演／旅行・滞在／美術時事／音楽時事／遊芸時事／演劇案内／映画案内／寄席案内 四、五

（※河部五郎、芦屋プロ、市川小太夫、政岡の銅像、日本キネマ、阪東妻三郎、マキノなど映画関係の記事） 六

馬も無しに走る馬車 駒田 好洋 六
七月雑誌要目（三の二）／婦人サロン／婦人倶楽部／現代／婦女界／婦人世界／婦人公論 六

新刊雑誌紹介（六月の三）／創作月報（六月の三）

第四百十号、第四百十一号（欠）
第四百十二号（美術版） 昭和五年八月七日
発行 六面

帝展の審査に就て―団体推薦法の提唱―

不動の動―契月氏の婦女図― 菊池 契月 一

私の結婚に關して 金島 桂華 一

絵画の精神的意義 伊東 深水 一

美術界の展望 荒木 十畝 一

（※川端龍子、山口蓬春、小室翠雲、井口華秋、堅山南風、池上秀畝などの記事） 二、三

新刊雑誌紹介（八月の一） 二

（※帝展審査員、第十回帝展開期、横山大観大智勝観渡伊スケッチ展、上海四名家絵画展、燦木社五回展、新カデノ、雪洲の実演、京都帝大映画研究会、舞踊協会、市川団子、提琴界のアウアー、ポラック来朝、俳優協会、八月の帝劇などの記事） 四
八月雑誌要目（二）／婦人サロン／婦女界／婦人倶楽部／婦人公論／婦人世界／現代 四、五

時報／文壇／移転／旅行・滞在／雜誌消息／美術界

音楽界／映画界／演劇界

伯林日本画展を觀る

八月雜誌要目（三の二）／文芸春秋／改造／新潮／

中央公論／詩と詩論／文学時代

八月創作月報（一）

（※主要広告）三宅周太郎著「文楽の研究」、三田村鳶
魚著「御殿女中」、中山太郎著「日本若者史」

第四百四十三号（欠）

第四百四十四号（美術版） 昭和五年九月十一

日発行 四面

第九回南画展に臨みて

小室 翠雲

時報／美術界／移転／旅行・滞在／会の消息／展覽

会

（※小室翠雲、広島晃甫、矢野橋村、古林古径、高
木保之助、長興山莊、南画院新同人新院友及授賞
者などの記事）

第九回南画院評（一）

豊田

日本南画院（九回）出品目録

二、四

（※主要広告）小室翠雲著「田崎早雲」

第四百四十五号／第四百四十八号（欠）

第四百四十九号 昭和五年十一月二十七日発行

四面

平凡社が廿万円の増資／債権者の筆頭博進社が大童

（※記事）

野間君益々勇躍／報知紙の発行部数は激増また激増

／大朝大毎に迫る（※記事）

探偵小説の戯曲化に就いて

岡本 綺堂

時報／文壇／演劇界／映画界／音楽界／演芸界

（※法学全集の課税、東京書籍商組合規約改正、先

代小さん、文戦一派の紛争、岩藤雪夫、三越分店

問題、組合役員の顔振れ、記事取消申込、教文書

院、日本評論社、アルス、忠誠堂、山本安英、藤

田満雄、戦旗の分裂、倉田潮、長原孝太郎、世

智辛い一例、業界片々など主として出版関係の記

事）

猛獣国世界横断（全八巻）——便概——蒲田だより

十二月号雜誌要目／中央公論／改造／新潮／文芸春

秋／キング／文学時代／朝日／文芸倶楽部／現代

／雄辯／富士／講談雜誌／婦女界／文芸春秋オー

ル読物号／講談倶楽部／婦人倶楽部／婦人サロン
／婦人公論／婦人世界

新刊雑誌の紹介十一月の二／十二月の一

(※主要広告―長谷川誠也著「文芸と心理分析」)

第百五十号 昭和五年十二月十七日発行
面

七絃会への出品

嵐の後にて

林町より

来る新年より芸術新聞と改題―社告―

時報／転居／会の消息／展覧会

(※横山大観、関長二郎、京都美工校、長谷川路可

世界一週スケッチ展、東京会展などの記事)

漫画『ちよん切れ蛇』のトーキー化／演芸界

七絃会と尚美展

(※山本茂、金子吉彌、三上ふみ子などの記事)

(※暹羅日本画展、米国日本画展、プロ美術展、美

術院長の辞職後任、宗教画展、小波山人を褒めた

ゝへる会、前米大統領クリリッヂ、興業的「エ

ロ」取締り、坂本勝脚色上演、嵐敵笑死去、歌舞

伎のトーキー化、シユースン来朝などの記事)

演劇案内
文筆の士芸術の士へ申上げる

新刊雑誌紹介十二月ノ二／創作月報十二月の二／創

作月報十一月の二

(※主要広告―長谷川伸戯曲集「疵高倉」、忍頂寺務著
「清元研究」、大野延太郎著「考古学大観」、大衆
文芸」創刊)